

会 議 概 要 書

審議会等の名称	令和5年度第2回磐田市文化振興委員会
担当部課名	自治市民部 文化振興課
会議の開催日時	令和6年2月9日（金）午前10時00分から午前11時00分
開催場所	磐田市民文化会館「かたりあ」創造活動室1
出席者（職・氏名）	○学識経験者 5名 ○市民の代表者 2名 ○市議会議員 1名 以上8名
議 題	① 令和5年度 磐田市文化芸術振興計画 実施計画報告について ② 令和5年度 磐田文化振興会事業 結果報告について ③ 第2次磐田市文化芸術振興計画の中間見直しについて
配付資料等の 件 名	・会議次第 ・（資料1）令和5年度 磐田市文化芸術振興計画 実施計画報告について ・（資料2）令和5年度 磐田文化振興会事業 結果報告について ・（資料3）第2次磐田市文化芸術振興計画の中間見直しについて
概 要	<p>【会議内容および主な質疑応答】 （主な質疑応答）</p> <p>①令和5年度 磐田市文化芸術振興計画 実施計画報告について 質疑・意見等なし</p> <p>②令和5年度 磐田文化振興会事業 結果報告について 委 員：反田恭平さんのコンサートの延期に伴い、どのように対応されたか。 事務局：チケット申込方法販売がW e b等になり、オンラインチケットサービス利用者はほとんどメール登録をしている。そのため中止の連絡を一斉メールで送ることができた。電話申込の方については電話を掛け事情を説明した。その結果、メールを確認しなかったという数人が来館して説明をする程度で混乱はなかった。また、振替公演にも関わらず90%を超える集客率であった。あらためてチケット予約方法を変更したことによって混乱を防ぐことができたと認識している。 委 員：当日来館してしまった数人はどのような方か？市内市外の別やメールが使えない方や高齢者など。 事務局：全てメールを見ていなかったという方で、市内の方や浜松市の方だった。 委 員：軒並み集客率が高くラインナップも充実している感じだが、集客率だけで見ると低いこともあったが集客に苦心しているようなところはあるか。 事務局：多くの事業でチケットが完売するほど順調であったため、逆にもう完売してしまったのかという意見を頂くほどだった。ただ、若い世代、特に10代20代前半への情報発信をどうするのかについては苦慮しているところもある。情報を拾いに行く方への効果的なPRが課題と認識している。</p> <p>③第2次磐田市文化芸術振興計画の中間見直しについて</p>

	<p>委員：外国人の文化活動やニーズの把握についてどのように考えているか。</p> <p>事務局：ニーズの確認については今後の検討になるが、今年度の状況として「オルケスタ・デ・ラ・ルス」では来場者の3割ほどが外国人だった。その他にもブラジルの方が貸館利用でイベントを開催した。外国人の方は SNS でかなりつながっているの、いいイベントをすれば人は集まると考えている。</p> <p>委員：ボランティアがいるとのことだが、今回3月20日のイベントはそのメンバーでやるということか？</p> <p>事務局：今回は市民提案事業ということで市民の代表としてボランティアの磐田文化サポーターの有志が企画運営しているものになる。サポーターが非常口係やチケットもぎりだけでなく、会館を運営している一員としてさらにモチベーションを高めていただくために実施している。</p> <p>委員：サポーターの年齢構成は。若い方たちはどのくらいいるか。</p> <p>事務局：現在高校生から70代までいる。その内、高校生が3名、大学生が5～6名、ただ30代は1名のみで大多数は50代以上となっている。</p> <p>委員：地域の活動等を活発に行っている年代が多いのは心強い。先ほど若い方たちへの情報の届け方について話があったが、若いサポーターを介して発信していくのも一つだと思う。</p> <p>委員：若い世代への広め方について、ボランティアに若いメンバーがいることは非常にいいことであるが、例えばこの会の委員を若い方にやっていただくとかは難しいか。平日の会議であるなど課題はあると思うが、もっと内側から関わりを持っていけたらいいと思う。</p> <p>事務局：現在、磐田文化振興会の役員の中にはサポーターの代表として若い方がいて、事業提案を含め若い方の意見を聞く機会を設けている。</p> <p>委員：若い方たちに自分たちと同じ世代にどうやって情報を届けるか一緒に考えてもらう機会をつくり、アイデアを出してもらうのがいいのではと思う。一緒に悩んで一緒に動くことで若い世代にもつながっていくのかなと思う。</p> <p>事務局：普通に公募してもなかなか集まらない現状もあるので、どういう形がよいのか今後検討させていただく。</p> <p>委員：市の公式 SNS は現在何があるか？</p> <p>事務局：現在、フェイスブック、X（エックス）、インスタグラム、LINE がある。</p> <p>委員：私の周りでも、テレビを見ている子は少なく、YouTube を見ている子、TikTok やインスタグラムのハッシュタグで関連しているものを探したりしている子が結構多い。ハッシュタグをたくさんつけて少しでも多くの若者に見てもらえるように</p>
--	--

工夫するのがよいと思う。

委員：文化協会では学校に協力していただいで子どもたちに講座を公開することを計画している。落語や狂言などに実際触れてもらうと刺激になる。学校がだいぶ様変わりして図工や音楽が減り、英語や数学が増えている。授業の容量は変わらないため、絵を描くなどの機会が減っていることから、文化の刺激を与えていきたい。

委員：「本物」に触れる機会というのは、特に小学生にとっては非常に貴重な体験になるので、学校としても演劇や寄席、能など普段の生活では見られないようなものに触れる学校の「行事」として積極的に導入できればと考えている。中学校はどうしても時数の関係で難しい部分があると思うが、小学校はある程度柔軟に対応できると思うので学校としても協力していきたいと考えている。

委員：令和8年度の部活動の地域移行に向けて検討されていると思うが、吹奏楽や演劇などの文化活動の現状とどう進んでいくのか、スポカルも確定ではないと思うが現状説明できる範囲で教えてほしい。

事務局：学校の今後の動きについては文化振興委員会では説明できかねるが、文化系の部活動でほぼ全部の中学校にあるのは吹奏楽になる。スポカルの吹奏楽については、子どもの総数も吹奏楽をやる子も減少している中、数校が合同してやれるような体制を作りながら、民間の団体で指導してくれるところを掘り起こしていく。今年度から民間の団体で土日に教えてくれるところがあったので、すでにそこで活動している中学生もいる。この団体は指導者がプロの演奏者なので、そういった人材や団体を探していく必要があると思う。

委員：イベント後のアンケートで来場者の年代や情報入手先などを聞くことも重要かと思うがいかがか。

事務局：年代や情報入手先の設問はある。磐田市の特徴として全戸配布のホールガイドを見てきたという方が全体の3～4割を占める。ただ、若い人たちはホームページ、知人の紹介、SNSが多いため、出演者の方にも発信をしてもらうなどの対応もしている。後はそれらを見て少し興味を持った方をいかに集客にまでつなげられるかが課題だと考える。

委員：駐車場の拡充について非常に大きなことだと思う。これにより車の渋滞や道路に溢れてしまうことは解消されたか。

事務局：大きな催事の際はかたりあの駐車場だけでは足りないため、アミューズ豊田の駐車場の一部を借用するなどして、今までのところ溢れたことはない。また、文化振興会の事業では豊田町駅からシャトルバスを出しており、そちらも好評をいただいている。

備	考	
---	---	--